

小学校・道徳の内容項目の解説

寛容・謙虚

●小学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること		[一般的な呼称例]
低学年	-----	
中学年	-----	
高学年	(4) 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にす。	寛容・謙虚

●解説

関連の説明	広がりや深まりのある人間関係を築くために必要な、謙虚な心と広い心をもった児童を育てようとする内容項目である。
全体的な理解	寛大な心をもって他人の過ちを許すことができるのも、自分も過ちを犯すことがあるからと自覚しているからであり、自分に対して謙虚であるからこそ他人に対して寛容になることができる。しかし、わたしたちは、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さをもっている。自分自身が成長の途上にあり、至らなさをもっていることなどを考え、自分を謙虚に見て、他人の過ちを許す態度や相手から学ぶような広い心をもつことが大切である。今日の重要な教育課題の一つであるいじめの問題に対応するとともに、いじめを生まない風土や環境を醸成するためにも、このような態度を育てることが重要である。なお、このことは、第3・4学年の段階においても、例えば、相手を思いやり親切にすることや、友達と信頼し合い助け合うことなどに関する指導を通じてはぐくまれている。
低学年	-----
中学年	-----
高学年	この段階においては、互いのものの見方、考え方の違いをそれまで以上に意識するようになる。そのような時期だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような意見や立場をとるのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。それとともに自分と異なった意見や立場、相手の過ちなどに対しても、広い心で受け止め、対処できるよう指導することが大切である。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること		[一般的な呼称例]
(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があつことを理解して、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ。		寛容・謙虚